

第6章

さまざまに組織との協働事業

おかやま ESD 国際ワークショップ ……………	120
地球市民村「持続可能性の学び」シンポジウム ……	122
ESD 連続セミナー……………	124
事務局カレンダー ……………	128

「おかやま ESD 国際ワークショップ」

フォーマル教育とノンフォーマル教育が協働するために

日時 2005年10月29日(土)～30日(日)

会場 岡山国際交流センター国際会議場、オルガホール

主催・共催 NPO 法人 岡山県国際団体協議会 (COINN)、国連大学高等研究所、ESD-J、岡山 ESD 推進協議会、大学コンソーシアム岡山創設準備委員会、RNN 人道援助宗教 NGO ネットワーク

プログラム

【10月29日 岡山国際交流センター国際会議場】

10:00～12:00 開会式

開会挨拶・メッセージなど

基調講演 Mr. Santosh Khatri (ユネスコ・パリ本部 ESD セクション)

Dr. Paolo Orefice (フィレンツェ大学、イタリア)

Dr. Jose Roberto Guevara (RMIT, オーストラリア)

Dr. David Selby (プリマス大学、イギリス、ビデオメッセージ)

12:00～14:00 昼食・休憩 (13:20～RNN ヒーリングコンサートあり)

14:00～18:00 セッション1 「初等・中等教育と地域社会の協働」

事例発表 永宗幸信師 (RNN)

福澤隼人氏 (宮城教育大学 / 仙台いぐね研究会)

池田満之氏ほか (岡山 KEEP / 岡山ユネスコ協会)

赤松康子氏ほか (INTERKIDS 国際塾)

Dr. Eun-Kyung Park (環境文化研究所、韓国)

内藤元久氏 (岡山 ESD 推進協議会)

議長 阿部治氏 (立教大学 / ESD-J)

【10月30日 オルガホール】

9:00～12:30 セッション2 「大学教育における ESD の導入」

事例発表 Dr. Mario T. Tabucanon (AIT、タイ)

Dr. Omar Osman, Dr. Zainal Abidin Sanusi (USM、マレーシア)

Dr. Grace Aguilin Dalisay (ミリアム大学、フィリピン)

羽後静子氏 (中部大学)

三浦栄仁氏、今西通好氏 (大学コンソーシアム岡山創設準備委員会)

議長 鈴木克徳氏 (国連大学高等研究所)

12:30～14:00 昼食・休憩

14:00～17:00 総括会議 (討議のまとめと共同声明の発表)

議長 青山勲氏 (岡山大学 / 岡山 ESD 推進協議会)、Dr. Jose Roberto Guevara

開催目的

幼稚園から大学までの学校教育（フォーマル教育）と、NGOや公民館などが行う学校外教育（ノンフォーマル教育）が、連携してESDをすすめるための課題と方策について話し合いました。

使用言語 日本語および英語（同時通訳あり）

概要

フォーマル教育とノンフォーマル教育との間のコミュニケーションを改善することが必要です。そのためには、両者の間をつなぐことができる個人や組織を育成することです。このような仲介役は、参加型アプローチをとおして、両者の異なる教育システムの重要性を認識したうえで、例えば、学校は学校のやり方で、公民館などの社会教育施設はその施設としてのやり方で行えるような形で、両者をうまく結びつけて行動する必要があります。そして、このような取組みが持続するためには、持続的な資金投入と活動を保障する政策が必要です。

報告：池田満之（政策 PT）



ユネスコ・パリ本部のESD担当者、サントスさんによる基調講演



岡山市京山地区でESDを実践する小・中・高生も、会議にて活動を発表し、ディスカッションにも参画した。



愛・地球博「地球市民村」で

「持続可能性への学び」シンポジウム

～「国連持続可能な開発のための教育の10年」と「地球市民村」～

日時：4月17日（日）13：30～16：00

会場：愛知万博・長久手会場「地球市民村」交流ホール

主催（財）2005年日本国際博覧会協会

企画協力 ESD-J

プログラム（敬称略）

第一部（13：30～）「持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」とは

講演1 ESDとはなにか

阿部治（立教大学教授、ESD-J代表理事）

講演2 「ESDの10年」をめぐる世界の動き

デレック・エリアス（ユネスコバンコク事務所プログラムスペシャリスト ESD担当）

講演3 学校教育とESD

嶋野道弘（文教大学教授、前文部科学省主任視学官）

第二部（14：35～）ESDへの期待と実践＜日本の取り組み＞

事例紹介1 ESD-Jの役割と活動 阿部治

事例紹介2 藤前干潟を守る学習と活動 辻淳夫（NPO法人藤前干潟を守る会）

事例紹介3 岡山市京山地区 ESD環境プロジェクト（岡山KEEP）

池田満之（代表）、岡山KEEPに参加している中学生・高校生

第三部（15：20～）地球市民村とESD

シンポジウムの講演者が、あらかじめ体験した「地球市民村」のプログラムについて、ESDの視点から、

その意義や可能性について語る 第三部司会：中野民夫（地球市民村）

総合司会・進行 村上千里（ESD-J事務局）



2005年、愛知県で開催された愛・地球博協会企画事業「地球市民村」には、毎月5つのNGOユニット（共通のテーマをもつ日本のホスト団体と国内外のパートナー団体で構成）が、「持続可能性への学び」をテーマにした参加・体験型プログラムを出展しました。ESD-Jもこれを機に、広く一般の方々にESDを知ってもらおうと、三部構成のシンポジウムを開催。約50名が参加し、多様な立場・世代からの意見・議論が交わされました。

ここでは、第2部の事例報告（中高生の発表!）と、それを受けての全体討論のようすをダイジェストします。

【事例1】百見一触の体感活動を！～藤前干潟を守る会

アラスカからオーストラリアに渡るシギチドリの最後の餌場である藤前干潟には、ごみの埋め立て計画がありました。藤前干潟を守る会代表の辻さんは、現場を誰よりも知り、その場の大切さを証明することに一番重きを置き、独自の環境アセスメントを行い、県が推進する人工干潟の代替案は現実的に不可能という調査結果を出しました。7割が有明海諫早湾の門を閉めることに反対という世論も後押しし、99年1月、藤前の埋め立てが中止になりました。さらに、名古屋でごみが2割減るなど市民の努力もあり、藤前の代わりに伊勢湾の木曽川にごみ処理場をつくる計画も撤回され、湿地帯・干潟の保全を目的とした国際条約であるラムサール条約に、藤前干潟が登録されるに至りました。

現在、ごみのない豊かな伊勢湾を取り戻すため、市民の視点から「百聞は一見にしかず」ならぬ「百見一触」の体感教育を始め、干潟のいのちのつながりについての学びの場を提供しています。シンポジウムの前日まで、諫早の「干

潟の日」のイベントに参加されていた辻さんは、「数億のハイガイが死に、有明海のノリの色が異変を起こし、漁民の方が自殺するなど、大きな被害が出ている。佐賀地裁は干拓工事の差止めを決定したが国はまだ認めていない。今、水門を開ければ、まだ復元は十分可能。持続可能な社会・未来を考えるうえで、諫早を取り戻さなければ私たちの未来はありえない」と、締めくくりました。

【事例 2】中学生が大人に問う！～岡山京山地区 ESD 環境プロジェクト（岡山 KEEP）

2005 年より、岡山市では国連大学の ESD に関する地域の拠点づくり事業（RCE）に、市全体で取り組んでいます。岡山 KEEP は、この事業の先駆的地域活動で、中学生をリーダーとして小学生から社会人までが参加。活動に参加していない人、市長・学識者なども招いて、公民館や中学校で、参加者全員が成果を発表してきました。学校だけで学ぶことの限界から、地域の人たちと協力で、体験・体感を重視した環境活動に取り組んできました。「このプロジェクトがはじまってから、子どもたちの表情が変わった、地域の未来を担う人を、地域の人が育てられるようにすることが ESD」と代表の池田さんが語りました。

岡山 KEEP で活動する 4 人の中高生は、次のように発表しました。

- 人間は人間のために便利なモノをつくった代わりに、大事なものを壊してきた。環境破壊はそれぞれの責任。自分たちが住みよい環境を自分たちでつくるべき
- 地域の風土や歴史とあわせて学び、世代を超えた協力で活動ができるのが理想
- 自然を大切にしろという大人が、自然を壊している。自分には、自然といっても連想するものがない。大人が壊した自然をなぜ子どもが直さなければならないのか、大人も真剣に考えて行動を起こしてほしい

●地球市民村からの発信

第三部は、ESD や地球市民村の取組みについて、講演者、シンポジウムの参加者、出展団体からの意見・感想などを交換する場となりました。あらかじめ、地球市民村のプログラムを体験していた講演者からは、「地球市民村が万博の主旨を一番伝えている」、「地元の里山の活動をされている方が、出展団体にないのが気がかり」、「自分を発見するとともに、相手に対する主張がみられた」などの感想が出ました。シンポジウムの参加者からは、「地球市民村や瀬戸愛知県館に本当の万博のメッセージがあるのに、多くの人がエンターテインメントだけをみて帰ってしまうのは残念」という声があがりました。そして、出展団体からは、以下のような感想をうかがいました。

（社）北海道ウタリ協会釧路支部

岡山の子どもたちに言いたい。「ヒョッコがなにを言うか!」。しかし、自分の意見をしっかりとと言えるのはすばらしい。一方で、政治の圧力で、命を脅かされている先住民族や自由に発言ができない人がいることも知ってほしい。

おかざき匠の会

平和な社会をつくらうという徳川家康の考え方、江戸時代の見直しをしています。平和で環境も考えた街づくりをした徳川家康を一つのテーマにしています。いのちと平和をテーマに、平和な江戸時代に育まれた技を伝える岡崎の石の職人さんが、作品を出展しました。

NPO 法人 ホールアース研究所

150cm の人が 3cm になったときに感じられる虫の世界をつくっています。どんな都会でもある自然に、たくさんの不思議があるということに気づききっかけをつくっています。

NPO 法人 ECOPLUS

世界の子どもたちが取り組む環境教育をつなぎ合わせ、お互いの違いを再発見する活動をしています。日本の子どもは、白鳥を守る運動をしています。アラスカの少数民族の子どもは、ライフルで撃たれた白鳥を食べる生活をしています。ある場所ではタブーとされることが、ある場所では当たり前となっているという事実を受け入れる、ということからはじめてみえてくる持続可能性があります。

報告：野口扶弥子（ESD-J 事務局）

環境パートナーシップオフィスとの共催で

ESD 連続セミナーを開催

環境教育と開発・福祉・人権教育が学び合うための視点とは？

共催：環境パートナーシップオフィス（EPO）、ESD-J

場所：環境パートナーシップオフィス

コーディネーター / 報告：村上千里（ESD-J 事務局長）

ESD の実現のためには、環境・開発・人権・平和・福祉など、私たちが直面するさまざまな課題をテーマとした教育活動がつながり、より包括的に展開される必要があるといわれている。そこで環境パートナーシップオフィス（EPO）と ESD-J は、環境教育とつながりそうなほかの分野の活動を知り、共通点や学び合える点などを探る場をつくることにした。2005 年度は「環境教育と開発教育」「環境教育と福祉」「環境教育と人権教育」の 3 本を実施し、目的・手法・課題など、さまざまな角度から接点を見つけることができた。以下にその概要をレポートする。より詳しい報告は、EPO ウェブサイトを参照いただきたい。

<http://www.geic.or.jp/geic/partnership/ESD/index.html>

■ 第一回 ESD セミナー 「開発教育と環境教育」

～ 持続可能な開発のための教育（ESD）に向けて ～

日時：2005 年 10 月 14 日（金）18：30～20：30

ゲスト：吉田正人氏（江戸川大学助教授・（財）日本自然保護協会理事）

上條直美氏（明治学院大学勤務・NPO 法人 開発教育協会理事・ESD-J 理事）

吉田さんのお話「自然系環境教育の流れと現状」

環境教育の歴史を自然保護教育と公害教育に遡り、環境教育推進法にいたる流れを解説いただいた。環境教育の課題として、①担い手の養成、②環境教育を担う組織の強化、③学校教育との関係づくり、の三点が指摘された。

上條さんのお話「変化し続ける開発教育～社会を変える学びの取組み」

開発教育の定義を「私たち一人ひとりが、開発をめぐるさまざまな問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、ともに生きることのできる公正な地球社会づくりに参加することをねらいとした教育活動」と紹介、そのなかでワークショップ、スタディーツアー、フィールドワークなどの参加型学習を大切にしていることが紹介された。

質疑応答・ディスカッションから（一部抜粋）

Q：開発教育（人間中心）と自然保護教育（自然中心）は矛盾するものか？

A：環境教育（自然保護教育）では、自然保護を「保存」、「保全」、「復元」の 3 つに整理しており、厳

正に守らなくてはならない場所では、手をつけずに守る「保存」が必要となるが、その周辺地域では、「保全」という考え方で自然を持続的に利用し、貧困の解消に結びつけることができる。開発と自然保護は矛盾するものではない。

Q：環境教育や開発教育は、日本国内で起こっている実際の開発問題にどのようにアプローチしてきたのか？

A1：藤前干潟では、地域の人びとにまずは干潟を知ってもらい、その魅力を体感してもらう環境学習活動が功を奏し、多くの人びとの関心を集め・高める役割を果たした。

A2：開発教育が日本国内の課題にどう向き合い、取り組むかということは今まさに大きな課題となっている。現在沖縄の歴史や自然、米軍基地を取り巻く問題などを教材化する取組みがすすんでいる。

Q：環境教育と開発教育の共通の課題として、「楽しいだけで終わらせない」ことが大切。そのカギはなにか？

A1：環境教育では「現場に行って体験して調べる」ことを重視している。開発教育でも、ゲームだけに終わらず、開発の現場に行って、座り込んでいる人の話を聞くなどの手法は問題解決につながるものだろう。

A2：当事者としての学びが重要。吉野川の可動堰問題では、当初多くの無関心な市民に問題を知ってもらい仲間になってもらうために、まず現場に行った。裸足で川に入り石畳を歩き、魚が泳ぐ風景を見たとき、これは残そうと思う人がでてきた。当事者であることに気づく学びには、環境、開発という枠を超えてESDがめざすべきもの。

A3：大切に思える場所を一つもち、愛情をもって追う作業を続けるうちに、今後の行動をはじめの自分の基準ができてくるように思う。

A4：一人で行動するだけではなく、人とのネットワークを大切にし、それを原動力あるいはきっかけとして活かすことはとても有効だと思う。



■第二回 ESD セミナー「環境と福祉」

日時：2005年11月10日（木）18：30～20：30

ゲスト：炭谷茂氏（環境福祉学会アドバイザー、環境事務次官）

柴田いずみ氏（（株）ヨコタ東北 環境教育チームリーダー）

唐木理恵子氏（練馬区社会福祉協議会、練馬ボランティアセンター ボランティアコーディネーター）

炭谷さんのお話「持続可能な地域社会づくり～環境福祉学会の活動～」

環境と福祉は根を同じくしているが、専門化がすすむなかで施策もバラバラにすすめられてきた。今、福祉と環境の融合をめざす取組みが、よりよい社会づくりには有効である。具体的な取組みとして、森林療法、コミュニティ・ガーデン、ユニバーサル・エコデザイン、高齢者による有機農業、フェアトレード、緑の交換事業などがすすめられている。

柴田さんのお話「福祉作業所との協働によるリサイクル活動」
プラスチックトレーのリサイクルと、再生プラスチックの再利用のため、再生トレーの表面に新しいフィルムをラッピングする技術を開発。利用後はフィルムをはがして衛生的にリサイクルが可能となった。この回収・選別・再生ペレット化を福祉作業所が担い、地域に雇用を生みだしている。



唐木さんのお話「ボランティアセンターがめざす地域の福祉、地域の学び」

福祉は「暮らしのニーズから生まれるもの」であり、社会福祉協議会は「地域の課題を発見し、地域の人と一緒に解決する場」として設置されたもの。ボランティアセンターも地域のニーズからはじめることを大切にしている。学校での福祉教育も、強制的なボランティア体験や疑似体験ではなく、地域のなかで学ぶことを大切にしてほしい。

質疑応答・ディスカッションから（一部抜粋）

Q：環境と福祉が結びつけば、かなり広範な社会をカバーできるだろう。ESD がめざすのも、そうした包括的な取り組みだと思う。両者のつながりについてコメントを。

A1：現在、環境や福祉というものが狭くとらえられているのではないか。今後は、もっと柔軟な視点で考えていく必要があるように思う。

A2：環境、福祉にかかわる人が、互いの分野を意識するだけでも大きな違いが生まれるだろう。環境学習を障害者と一緒に行うなど、両者が互いの分野に入り込んでいくことが必要かと思う。

A3：福祉の基本に立ち返れば、福祉教育はESD とほぼイコールといってもよいのではないか。ただ「地域の課題」のとらえ方が重要で、自分の地域でない問題は切り離していい、ということではなく、世界の課題とつながれるかどうか、忘れてはいけないポイントだと思う。

■第三回 ESD セミナー「環境教育と人権教育」

日時：2005年12月6日（火）18：30～20：30

ゲスト：森実氏（大阪教育大学教員、大阪多様性教育ネットワーク共同代表、ESD-J 理事）

川嶋直氏（（財）キープ協会常務理事、（社）日本環境教育フォーラム専務理事、ESD-J 理事）



川嶋さんのお話

「環境教育～具体的な活動と大切にしている価値～」

環境問題を解決していくには、規制、技術、意識変革が必要で、人びとの意識改革を担うのが環境教育の役割。環境教育のおもな特徴は、体験や参加を重視し、気づきを促す点にある。まずは Do（体験する）、体験から学んだことを Look（みつめる、指摘する）、Think（考える、掘り下げる）、Plan / Grow（次に向けて、学びを概念化・言語化する）という体験学習法のプロセスを普及させている。

森さんのお話「人権教育の概要～運動と政策をめぐって～」

家庭、子育て、学力、進学、就職、仕事、収入、結婚など、人生のあらゆるステージで、差別に起因する悪循環がある。そして差別は被差別者個人の不利益にとどまらず、社会的緊張の激化、人間観のゆがみなど、社会全体の不利益につながっている。この悪循環を断つために、生活をとおした仲間づくりから、内的葛藤を発展させる参加型人権学習が必要とされている。

人権教育もまた、たんに問題を知るだけでは意味がない。

自分自身に照らして「みつめる」、他者と「語り合う」、そして「つながる」、というサイクルが大切。そうした自己と他者との連携によって大きな力が生まれ、社会への発信・参加・変革へとつながる。



質疑応答・ディスカッションから（一部抜粋）

Q：「人権教育のための国連10年」の成果と積み残した課題について。

A：国内では同和対策事業のなかで部落差別に対応していたが、裏づけとなる法が2002年に失効し、同時に人権教育・啓発に関する基本計画が発表された。2003年から国で人権教育の指導法などのあり方について検討している。まだ途中だが、参加型が大きく位置づけられ、子どもたちの声を聞く点を重視するなど、教育の現場でのノウハウもある程度は盛り込まれそうだ。ただし、現に非常に厳しい状況の子どもと接している現場の視点からは、差別・貧困の悪循環の解決にはつながりにくい、という評価もある。

Q：環境教育においても貧困の問題から目をそらしてはいけないと思うが、最近はそうした問題を正面からとらえず「ソフト」な傾向になっているのではないか。

A1：貧困が重要な問題だというのはもちろん同感。ただ環境教育の多くはそこまでアプローチできていないのが現状。

A2：解決のきっかけになりそうなものに、まちづくりがある。コミュニティーをつくるには、まさに環境、人権、貧困などの問題を一緒に考える必要があり、地域の問題のつながりを生むきっかけになれるのではないか。

A3：自然体験プログラムをとおして、過疎の山村で事業を興すなど、じつはそれとは意識しないでやっていることも多い。地域の開発や公害の根っこに貧困問題があるところを理解したうえで、プログラムやエコツアーがもつ意味をとらえなおすことがESDにつながると思う。

報告：村上千里（ESD-J事務局）

事務局カレンダー

2005年

2005年4月～ 2006年3月	協力	国連・持続可能な開発のための教育の10年[ずっと地球と生きる]学校プロジェクト	主催：日本ユネスコ協会連盟・読売新聞社 特別協力：ESD-J
4月15日	協力	「持続可能な開発のための教育ESDがめざすもの～ユネスコとESD-Jからのメッセージ」	ユネスコバンコクのESD担当官、ESD-J事務局が、ともにゲスト参加 主催：豊中市、財団法人とよなか国際交流協会
4月17日	普及	愛・地球博、地球市民村「持続可能性への学び」シンポジウム	ESDのあり方を国際的な視点や日本の教育的課題、地域の取組みから紹介 主催：財団法人2005年日本国際博覧会協会 企画協力：ESD-J
4月18日	普及	「ユネスコのデレックさんを囲んで『未来への学び(ESD)』対話集会」	岡山市長への表敬訪問のあと、多様な参加者との意見交換 岡山KEEPと主催
4月27日	協力	「3R市民フォーラム～世界へつなぐ市民ネットワーク」	「3Rイニシアティブ閣僚会合」(4月28日-30日)へ市民の提案を届けるために参加
5月7-8日	運営	第1回理事会(合宿)	理事会合宿を実施、2004年度活動報告と2005年度活動計画、ESD-Jの中長期ビジョンなどについて2日間にわたり議論
5月21-22日	普及	日本環境教育学会第16回大会	ESD-J会員有志が、ポスター発表・ESD小集会を実施
6月1日	情報	ESDレポート第4号発行	ESDの10年キックオフミーティングの特集のほか、愛知万博シンポジウム記事、ESD-Jの2005年度活動方針などを掲載
6月4日	地域	ESD地域ミーティング	in徳島 主催：四国NGOネットワーク
6月8日	政策	ESD岡山円卓会議	地域の現実からESD推進にむけた議論に、市長をはじめ、国連大学、環境省、メディア、企業が参加
6月12日	運営	第2回理事会・通常総会	2004年度事業・決算報告、および2005年度事業計画・予算の承認、中長期計画についての議論
6月28-29日	普及	アジア太平洋地域ESDの10年開始記念式典・シンポジウム	ESD-Jは、NGO紹介ブースに出展のほか、分科会「地域のイニシアチブ」に、竹内理事がコメンテーターとして参加 主催：ユネスコ・国連大学
7月4日	運営	PTリーダー会議	各PTの事業進捗状況に関する情報共有、今後の事業のすすめ方・方向性、組織体制、中長期ビジョンについての議論
2005年7月～9月末	協力	『言の葉さらさらプロジェクト』	主催：言の葉さらさらプロジェクト実行委員会 後援：ESD-J
7月10日	普及	Be Good Café	「言の葉さらさらプロジェクト」のなかでESDとESD-Jをアピール
8月21日 -9月2日	国際	国際交流基金アジアNPO派遣	ESD-J理事・会員・事務局スタッフが韓国・インドネシア・タイでESDを推進、実践する団体や現場を訪問 企画協力・参加
9月1日	情報	ESDレポート第5号発行	地域発ESDとして、各地のコミュニティレストランを特集、ほか日本実施計画策定の動き、アジア・日本の地域などのESDについての記事を掲載
9月2日-3日	地域	地域PT戦略会議(合宿)	地域でのESDのすすめ方、ESDの指標、地域のESD事例集などについての議論
9月3日	地域	ESD地域ミーティング	in東京板橋 主催：NPO法人ポランティア・市民活動推進センター
9月7日	政策	2005衆議院総選挙に向けた、緊急アピール	衆議院選挙に向け、「環境」や「持続可能性」の視点を各政党の政策に取り入れるよう、34の賛同団体とともに緊急アピールを各政党・新聞各社に提出
9月10日	運営	第3回理事会	ESDキックオフブック、アジアESD国際シンポジウム、戦略ワークショップ、ESD地域ミーティング・地域ブロックミーティングなどのすすめ方についての議論

9月22-25日	国際	ESD 国際会議・シンポジウム	ESDの推進に向け、理論や実践についての情報交換や連携についての議論。ESDアジアネットワーク構築に向けた戦略ワークショップの実施。立教大学東アジア地域環境問題研究所などと主催
10月21-22日	地域	ESD 地域ミーティング	in 岩手 主催：国立大学法人岩手大学、NPO 法人環境パートナーシップいわて
10月14日 11月10日 12月6日	普及	ESD 連続セミナー	第一回「環境と開発」、第二回「環境と福祉」、第三回「環境と人権」 主催：環境パートナーシップオフィス(EPO)、地球環境パートナーシッププラザ(GEIC) 共催：ESD-J
10月22日 11月23日 2006年1月21日	協力	連続フォーラム「地球市民大学校 環境 NGO と市民の集い」	主催：独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金、企画運営：ESD-J 企画協力：全国青年環境連盟(エコリーグ)(第一回)、国際青年環境 NGO (A SEED JAPAN)(第二回)、NPO 法人 スクール・アドバイスネットワーク(SANet)(第三回)
10月29-30日	協力	おかやま ESD 国際ワークショップ	「フォーマル教育とノンフォーマル教育が協働するために」をテーマに開催、ESD-Jからは阿部・池田・大島の各理事が参加 主催：NPO 法人 岡山県国際団体協議会 共催：ESD-J
11月18日	運営	PT リーダー会議	ESD 地域ミーティング・ブロックミーティングのすすめ方、ESDの10年日本実施計画への提言、国際会議の報告とESD-APの取組み案などの議論
12月1日	情報	ESD レポート第6号発行	ESD アジア訪問記の特集のほか、北信越地域ブロックミーティング、ESD アジアネットワークなどに関する記事を掲載
12月11日	運営	第4回理事会	政府への要望書提出の報告のほか、ESD-J 全国ミーティング企画や来年度の活動展開などについての議論
12月18日	地域	東海地域ブロックミーティング	主催：環境省 共催：ESD-J
12月23日	地域	北信越地域ブロックミーティング	主催：環境省、北信越地域ブロックミーティング実行委員会 共催：ESD-J
12月27日	政策	小泉総理宛ての ESD 推進に関する要望書を提出	政府の ESD 推進体制などに関する要望書を、長勢内閣官房副長官(衆議院議員)に手渡し

2006年

1月16-17日	地域	地域 PT 戦略会合 in 松山	四国の ESD コーディネーターとともに、ESD の地域展開のあり方や、政策へのインプットなどの議論
1月20日	政策	ESD 日本実施計画に関する意見交換会&パブリックコメント	関係省庁連絡会議が作成した日本実施計画素案に関する意見交換会を開催。環境パートナーシップオフィスと主催
2月4日	地域	ESD コーディネーター会議	「地域ミーティングをどう進化させるのか?」をテーマに、地域での ESD の展開における課題の共有、課題克服などについての議論。24 地域・約 40 名が参加
2月5日	全体	ESD 全国ミーティング	政府・NGO など、さまざまな地域や団体での ESD への取組みの共有・意見交換。会員・一般の ESD 関係者約 180 名が参加
2月7日	政策	ESD 日本実施計画に関する意見交換会 in 大阪	主催：環境省近畿環境パートナーシップオフィス(きんき環境館)、協力：ESD-J
2月8日	政策	ESD 日本実施計画に関する意見交換会 in 岡山	主催：環境省中国環境パートナーシップオフィス、岡山 ESD 研究会、NPO 法人 岡山県国際団体連絡協議会、ESD-J
2月11日	地域	ESD 地域ミーティング	in 旭川 主催：北海道開発教育ネット(D-net)
2月12日	地域	ESD 地域ミーティング	in 大阪泉北 主催：NPO 法人ダッシュ

2月18日	地域	ESD 地域ミーティング	in 青森 主催：青森開発教育研究会
2月19日	政策	ESD 日本実施計画に関する意見交換会 in 金沢	主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス、協力：ESD-J
2月21日	地域	ESD 地域ミーティング	in 香川 主催：NPO 法人 いきいき小豆島
2月23日	政策	ESD 日本実施計画へのパブリックコメント提出	意見交換会および ESD-J 会員からのパブリックコメントを取りまとめ、環境省総合環境政策局環境教育推進室に提出
2月24日	地域	ESD 地域ミーティング	in 秋田 主催：NPO 法人 秋田県南 NPO センター
2月26日	地域	ESD 地域ミーティング	in 東京日野 主催：日野市環境情報センター
2月27日	国際	ESD-AP 準備委員会共同幹事会議	ESD-AP 準備委員会共同幹事のハラクラナック氏(タイ TEI)、李氏(韓国 PCSD)、原田氏(ESD-J) が、ESD-AP の組織体制づくりや運営について議論
3月1日	情報	ESD レポート第7号発行	ESD 全国ミーティングの特集のほか、総合的な学習の時間を支援する文科省の事業紹介などの記事を掲載
3月1日	政策	ESD 日本実施計画に関する意見交換会 in 名古屋	主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス、協力：ESD-J
3月5日	運営	第5回理事会	今年度事業の進捗状況および、来年度の ESD-J の事業計画や方向性についての議論

運営	団体運営に関する活動
政策	政策提言に関する活動
地域	地域ネットワークに関する活動
国際	国際ネットワークに関する活動
情報	情報共有に関する活動
普及	研修・普及に関する活動
全体	上記以外の、ESD-J が主催したミーティング
協力	上記以外の ESD-J が共催、協力、後援、参加したミーティングなど

* なお、各理事・会員が ESD に関連する会議や研修会に、講師として参加しています。ここでは、そのうちの一部をご紹介します。

2005年6月10日	講演	サステナビリティ教育国際シンポジウム
7月9日	講演	食農教育ネットワーク設立記念フォーラム
7月28日	研修	岡山市 ESD 指導者研修会
8月2日	講演	オープンフォーラム「- 持続可能な開発のための教育 -」 主催：富山国際大学
8月13日	講演	月例研究会「ESD の ABC」 NPO 法人 エコテクノロジー研究会
11月8日	講演	国際コース特別講座「持続可能な開発のための教育とは」 富山県立桜井高校
2006年1月13日	講演	DEAR 関西
1月30日	講演	環境カウンセラー研修（関東地区）
2月15日	講師派遣	日教組人権教育研究会
2月25日-26日	講師派遣	部落解放研究三重県集会 主催：部落解放研究三重県集会実行委員会
2月25日-26日	講師派遣	柏崎環境ミーティング 主催：柏崎環境ミーティング実行委員会
2月25日-26日	講師派遣・協力	ESD コーディネータートレーニング in 帯広 主催：さっぽろ自由学校「遊」
3月22日	講演	多夢多夢ナイト「持続可能な社会のために」 最初の一步の勉強会
3月19日	講演	勉強会「地球の未来をともに考えてみませんか」 ESD とよなか